

# 人生の樂事

福澤諭吉

青空文庫



左の一編は十一月十一日、府下芝区三田慶應義塾に於て福澤先生の演説したるその大意の筆記なり。

人には何か楽しむ所のものなかるべからず。旅行を好む者あり、閑居を貪る者あり、遊芸を嗜む者あり、書画骨董を悦ぶ者あり。尚お之より以外には財産の増殖に余念なき者もあれば、功名利達に熱心なる者もあり。その他千種万様限りなき人事の運動は、浮世の人々がおのゝその心を楽しましめんとするの働にして、或は之をその人の楽しみとも云えば又はその志とも云う。諸君にも必ず何か楽しむ所、志す所のものあるべし。折々は相会して之を語り之を論ずるこそ面白けれ。今晚は老生が壮年の時より今に

至るまで曾て一日も忘れたることなくして、遂に今に至るまで意の如くならざりし一快樂事の想像を語らんに、老生は本来儒學生にして、今を去ること四十年、年齢二十の頃、始めて洋学に志し、その入門は物理学にして、之を悦ぶこと甚だしく、何か一科の専門に入りて為すことあらんとの熱心は万々なれども、時勢の許さざる所にして、家に資力もなく、朝暮衣食の計に忙かして心を専一にすること能わざるのみか、開国以来の世変を見れば自から黙止すべきにも非ず、色々の著述などして時を費したることも多し。左れども物理学の一事は到底心頭を去らずして、之を思えばいよく面白く、独り心に謂らく、造化の秘密、誠に秘密なるが如くなれども、化翁必ずしも之を秘するに非ず、人の之を探究せざる

が故なり。蒸氣、電氣の働はたらきは開闢かいびやくの初はじめより明に示す所なれども、人間の暗愚なる、久しく之を知らずして、漸ようやく近年に至り始めてその端緒を探り得たるのみ。今後とても人智の次第に進歩するに従い、いよいよ之を探りていよく之を知り、その知り得たる上にて未いまだ知らざる時のことを思えば、唯人間の暗愚なりしを悟るのみにして、今日は学界尚お暗黒の時代と云うも可なり。この時に当り一意専心、物理を探究して、造化の秘密を開くは人間無上の快樂にして、王公の富貴榮華も羨うらやむに足らず。之を眼下に見てその生活の卑俗なるを憐むと同時に、自家の空想を逞たくましうし、例えば動植物生々の理、地球の組織又その天体との関係、化学の働はたらきは果して何れの辺いずにまで達すべきや、宇宙勢力の原則は果して

既に定まりたるや否や、など仔細に之を思えば千百の疑問際限あるべからず。満目恰も造化の秘密に囲まれて唯人智の浅弱を嘆ずるのみなれども、いよく進んでいよく深きに達し、曾て底止する所を知らざるも亦是れ人生の約束なれば、勇を鼓して知見の区域を拡め、恰も化翁と境を争うは是れぞ学者の本領なりと深く信じて之を疑わず、殊に我日本人の性質を見るに、西洋文明の新事を知りしは輒近のことなれども、知識の教育練磨は千百年來生々の遺伝に存して、新事の理を解するに苦しまざるのみか、起首原造の天資に乏しからずして、洋学開始以來単に西洋を学ぶの時代は既に経過し、今は学問場裡に彼我併立の勢を成して、今後我学者の勉る所は唯彼れに對して先鞭を着るに在るのみ。

実に日本国の一大快事なれども、唯こゝに遺憾いかんなるはその学者を  
 して一意専心ならしむるの手段ついでに就て意の如くならざるもの多き  
 の一事なり。如何いかなる学者にてもその身匏瓜ほうかにあらざれば衣食の  
 計なきを得ず。然しかるに生計は人生に最も煩わづらわしくして、学者の思  
 想を妨ること之より甚はなはだしきものあるべからず。独坐沈思、宇宙  
 無辺の大より物質微塵の細に至るまで、その理を案じその働はたらきを察  
 し、乍たちまち得たるが如くにして又乍ち失い、恍として身躬みみずからその  
 身の在る処を忘れ、一心不乱、耳目鼻口じもくびこうの官能も殆んど中止の姿  
 を呈したるその最中に、突然家計塩噌えんその急に促され、金銭受授の  
 俗談に叫ばるゝが如きありては、思想の連鎖一時に断絶して又旧  
 に復するを得ず。之を喩たとえば熟眠、夢方まさたけなわに酣おもてなるのとき、面にザ

ブリと冷水を注がれたるが如く、殺風景とも苦痛とも形容の詞あるべからず。世間一般の人は左程さほどに思わざるべけれども、唯学者にして始めてこの苦痛の苦味を知るべきのみ。今日の実際に於ておい政治家に哲学者なく、新聞記者に物理学の専門家少なく、開業医師に学医稀まれにして、説法僧に善知識を見ざるも、自から偶然あらかに非ず。左れば今この学思の妨害を除て專一ならしめんとするには、学者に衣食の資を給して物外に安心せしむるの一法あるのみにして、窃ひそかにその方法を案ずるに、法律規則を以て組織もつしたる政府の筋には固もとより依頼すべからず。今の不学なる俗政府の俸給などに衣食し、俗物に交わり、俗言を聞き、甚はなはだしきはその俗物の干涉を被り、催促を受けながら、学事を研究せんとするが如き、その



無益たるは云うまでもなく、たと仮令いあるい或は世間有志者の発意を以て  
 私に資金を給せんとする者あるも、そのこれを給するや公共の為  
 めにも私の為めにも近く実利益を期するが如き胸算にては、  
 本来の目的に齟齬するものなり。老生が真実の目的を申せば、爰  
 に一種の研究所を設けて、凡そ五、六名乃至十名の学者を撰び、  
これ之に生涯安心の生計を授けて学事の外に顧慮する所なからしめ、  
かつ且その学問上に研究する事柄もその方法も本人の思うがまゝに一  
かたわら任して傍より喙を容れず、その成績の果して能く人を利するか利  
 せざるかを問わざるのみか、寧ろ今の世に云う実利益に遠きもの  
えらを択んでその理を究め、之を究めて之に達せざるも可なり、之が  
た為めに金を費して全く無益に属するも可なり、その人の一生涯に

成らざれば半途にして第二世に遺すも可なり、或はその人が病氣の時に休息するは勿論、無病にても氣分に進まざる時は業を中止すべし、勤るも怠るも都て勝手次第にして、俗に云えば學者を飼放し又飼殺しにすることなり。斯の如くすれば万事不取締にして、とて迎も実効を奏することなしと思ふ者こそ多かるべけれども、元來學者の学を好むは酒客の酒に於けるが如くにして、傍より之を制すべからざるのみか、自から禁ずること能わざる所のものなれば、所謂飼放しはその勉強を促すの方便にして、俗界に喋々ようする規則取締等こそ真に学思を妨るの害物なりと知るべし。凡そこの辺の趣向にしたらば、日本の學者も始めて能くその本色を現わして辛苦勉励、心身の力を尽し、遂に造化の秘密を摘発し

て世界中の物理学に新面目を開くこともあるべし。こころみ 試に實際の費用を概算するに、十名の学者に一年千二百円を給して共計一万二千円（この種の学者は世間に交際も少なく、衣食住の辺幅を張らんとするが如き俗念もなく、物外に独立して他を顧みざること恰あたかも仙人の如き者なれば、一年の生計千二百円にて十分なるべし）。この外に一名に付き毎年凡そ二、三百円を生命保険に掛けて死後の安心を得せしむるの要もあれば、学者の身に費すもの凡そ一万五千元として、他は研究の費用なり。その高は際限なきことなれども、仮に先まず三万五千元とすれば、両様合して五万円を毎年消費する勘定なり。或は右の如く計画しても、十名中に死する者もあらん、又は中途にして研究所を脱する者もあらん、又は不徳義

にして怠る者もあらんなれども、十名共に全璧ぜんぺきならんことを望むは有情の世界に無理なる注文にこそあれば、十中の五にても三にても、前後節を改めずして確乎たる者あれば以て足るべし。一人の学力能く全世界を動かすの例あり。期する所は唯その學問の高尚深遠に在るのみ。

以上の趣向は老生が壯年のときより想像する所にして、人に語るも無益なるを知り、一、二親友の外に口外したることもなく、人生の運命は計られず、万に一は自分の身に叶かなうこともあらんかひとひそかと独り窃ひそかに夢を画えがきたることもなきに非あらざれども、畢ひつきよう竟痴人さの夢にして、迎も生涯に叶うべき事に非ず。左れば今満堂の諸君は年尚なわかお少わかし、一生の行路に幾多の禍福に逢うは必然の數にして、

或<sup>ある</sup>は大資産の身<sup>な</sup>と為り、衣食余りて別に心身の快樂を求め、特に大に好事心を<sup>たくまし</sup>逞<sup>たくまし</sup>うせんとしてその方法を得<sup>ご</sup>ざるが如<sup>ごと</sup>き境遇に際する<sup>る</sup>こともあらんには、むかしく明治二十六年十一月十一日、慶應義塾にて云<sup>うんぬん</sup>々の演説を聴<sup>き</sup>しこともありと、之<sup>これ</sup>を思出して何か面白<sup>くわだて</sup>き企<sup>くわだて</sup>もあらば、老生の生前<sup>おい</sup>に於<sup>お</sup>て之を喜ぶのみならず、仮<sup>た</sup>令<sup>と</sup>い死後<sup>と</sup>にても草葉の蔭より大賛成を表して知友の美挙に感泣<sup>す</sup>ることあるべし。



# 青空文庫情報

底本：「福澤諭吉著作集 第5巻 学問之独立 慶應義塾之記」  
慶應義塾大学出版会

2002（平成14）年11月15日初版第1刷発行

底本の親本：「時事新報」

1893（明治26）年11月14日

初出：「時事新報」

1893（明治26）年11月14日

※【 】内の編者による解説は省略しました。

※底本の編者による語注は省略しました。

入力：田中哲郎

校正：hitsuji

2020年1月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 人生の樂事

福澤諭吉

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>